

## 愛知県吹奏楽連盟 理事長挨拶

2021年度（令和3年度）は、コロナ禍の中で迎えることになりました。一年前には「来年度は、ワクチンを接種して今まで通りコンクールを開催できるだろう」と誰もが期待をしていました。しかし、その思いは裏切られ、一年経った今でもコロナウイルスは猛威を奮い続けています。吹奏楽活動をこれまで通りにはできない一年間がまた始まりました。

2020年度を振り返ってみると、全国の学校が一斉休業中の5月にコンクール等の前期事業の中止を決定しました。60年間の歴史の中で初めてのことです。当時の最上級生部員の無念さは計り知れません。しかし、愛知県吹奏楽連盟は、この前例のない異常事態に対応した新規の事業を企画・実施してきました。

まず第1弾として、緊急事態宣言が解除になり、学校の再開に向けたガイドラインが愛知県教育委員会から発表されたところで「吹奏楽部の活動再開に向けてのガイドライン」を作成・公表し、吹奏楽部再開の指針としました。その後も各種ガイドラインを公表・更新してきました。

そして第2弾として、指導者向け動画「吹奏楽部再開に向けて」と、部員・団員向け動画「楽器別基礎奏法講座」の制作・公開を行いました。「吹奏楽部再開に向けて」は、感染症対策を行った上での具体的な練習方法等を紹介した動画になります。また、「楽器別基礎奏法講座」は、各楽器（12パート）のレッスン動画になっており、33名のプロ奏者や音楽大学の先生方の協力の下に制作し、吹奏楽連盟加盟団体に限定配信しました。この動画は、今後五年間にわたって配信する予定です。

さらに第3弾として、吹奏楽コンクールの代替事業「スマホ動画によるニュースタイル・ソロコンテスト」を企画・実施しました。このコンテストは、小学生（6年生）・中学生（3年生）・高校生（2・3年生）・大学生・一般の五部門で開催され、指定の課題曲の演奏をスマートフォン等で録画し、その動画を審査するという、新しい形のソロコンテストです。動画による予選を通過した上位者は、9月末に名古屋音楽大学のめいおんホールで行われた本選に出場し、さらに上位3名を選出しました。

これらの新規事業は、コロナ禍であったからこそ企画・実施できたものですが、短い準備期間で開催することができたのは、多くの方々のご理解・ご協力をいただけたおかげです。本当にありがとうございました。

後期事業（愛知県アンサンブルコンテスト、中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会、吹奏楽フェスティバル、吹奏楽セミナー等）は、今までとは違う開催方法になってしまったとしても、中止にはせず開催することを念頭に置いて取り組みました。県アンサンブルコンテスト（小・中・高）や中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会（小・中・高）は動画による審査という形で実施しました。吹奏楽セミナーは、半日開催としました。残念ながら大学・職場・一般吹奏楽フェスティバルと県アンサンブルコンテスト（大学・職場一般の部）は、中止といたしました。前期事業のように、全てを中止することにはなりませんでしたが、動画審査等の実施方法には多くの課題もありました。

愛知県吹奏楽連盟創立 60 周年記念事業について、5 月の「東京佼成ウインドオーケストラ演奏会・クリニック」、8 月の「センチュリーホール・ドリームコンサート」2021 年 2 月の「動くコンサート」は全て中止としました。4 月に予定していた記念式典・祝賀会は、11 月 8 日に延期し、規模を縮小して感染予防対策を行いながら記念式典のみを開催しました。また、この激動の 2020 年を含めた十年間の愛知県吹奏楽連盟の歩みを記念誌「60 年史」としてまとめ、発行することができました。今後、全ての加盟団体に配付いたします。

この前例のない「コロナ禍」という非常事態は、これからもしばらく続くと思われまます。私たち、吹奏楽を愛する全ての者は、「今まで通り」という考えを改めて「コロナ禍での新しい吹奏楽活動」を模索しながら展開していかなければなりません。

愛知県吹奏楽連盟は、2020 年度の教訓を生かして「どのようにコンクール等を開催するか、そのためにはどのような準備・対策等を工夫・実践するか」など「新しい様式の吹奏楽活動」の推進に向けて、努力していく所存です。

2020 年 9 月に文部科学省から「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」が発表されました。この通達の趣旨は、「学校部活動を地域部活動に移行していく」というもので、休日（土・日・祝日等）の部活動を学校から地域に移行するという考えが記載されています。この取組では、2021 年度からモデル地域等で環境整備等を行い、2023 年度から全国展開（休日の部活動の段階的な地域移行）していくという、かなり性急なスケジュールとなっています。

これは、2019 年 12 月に文化庁から発表された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の動きが、コロナ禍によりさらに加速されたものだと思います。このまま推し進められれば、近い将来に「学校の部活動がなくなる」ことが危惧

されます。

この文部科学省の動きに対して、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、それぞれの地域の行政や教育委員会がどのように対応していくのかをしっかりと注視し、情報収集をすることで、これからの吹奏楽活動の在り方を検討し、先を見て行動していかなければならないと思います。また、上位団体である全日本吹奏楽連盟や東海吹奏楽連盟、中部日本吹奏楽連盟ともしっかりと連携していかなければいけないと考えています。

今年度は、この「コロナ禍」と「働き方改革」の大きな二つのうねりに、柔軟に対応する吹奏楽活動に力を入れていきたいと思っています。吹奏楽を愛する皆様、ぜひ皆様の考えや地道な取組についてお知らせください。この吹奏楽活動の危機を、総力を挙げて乗り切りましょう。

愛知県吹奏楽連盟としては、これまで通り、小・中学校部門、高校部門、大学・職場・一般部門の三つの部門連盟を縦軸、マーチング委員会、イベント委員会、セミナー委員会、行事担当委員会、全国大会実行運営局、事務局と会計局を横軸として、縦軸と横軸が有機的に関わり合いながら活力ある活動を実践していくことに加え、今後は縦軸と横軸の関わりに指導者の年齢を超えた柔軟な発想により「新しい吹奏楽活動」を展開していく必要性を強く感じています。そして、これらの愛知県吹奏楽連盟の取組を多くの方々に理解していただくために、ホームページによる情報発信や、さまざまなメディアでの情宣にも力を入れていきたいと思っています。

最後になりますが、当連盟がここまで成長できましたのは、各加盟団体構成員と指導者の皆様の熱意によるものであり、そのことに深く感謝いたします。同時に、これほどの規模に達するまで支え続けた役員・先輩諸氏のご努力に、心より敬意を表したいと思います。さらに、関連して支援していただいた全ての関係者の方々に心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

愛知県吹奏楽連盟の目的である『吹奏楽による音楽普及向上を図り、文化の発展に寄与すること』の意味を改めて考えることで、更なる充実・発展を目指すことを決意するとともに、皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、2021年度の挨拶といたします。

愛知県吹奏楽連盟 理事長 斎藤 和憲